

会 議 録

会 議 名	令和 4 年度 第 1 回 川西市社会教育委員の会		
事務局	教育推進部 社会教育課（内線 4567）		
開催日時	令和 4 年 6 月 23 日(木)14 時～15 時 40 分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室(zoom による web 併用会議)		
出席者	委 員	野崎議長、常行副議長、上田委員、柏木委員、倉橋委員 金子委員、大西委員、田中委員	
	そ の 他		
	事 務 局	石田教育長、中西教育推進部長 籾内教育推進部副部長(社会教育・図書館・公民館担当) 寺田社会教育課長、木田社会教育課長補佐、 山田社会教育課副主幹	
傍聴の可否	可	傍 聴 者 数	なし
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第	別紙のとおり		
会 議 結 果	別紙のとおり		

審議経過

1. 開 会

2. 教育長あいさつ

- ・社会教育委員の会では色々な社会教育全般について協議していただいていたところである。
- ・数年前から社会教育全体の話だけではなく、個々の社会教育施設や活動について具体的に考えていこうということで、公民館や学校運営協議会、レフネック等について具体的なお意見をいただき、それを出来るだけ施策に活用していけるような形の協議の場となっている。
- ・今年度は新たに「川西市郷土館の活用」について、ご意見、ご協議をいただきたいと思っている。開館以来30年以上が経過する中で、一時的に入館者が減った時期があった。しかし、歴代の郷土館の館長が色々な取り組みや工夫をした努力の成果があって、一定の来館者は望めているような状況である。
- ・今後この施設を維持していく中で、より一層活性化する方法は無いか、郷土館の現地視察も交えながら具体的な提言を頂戴したいと思っている。

3. 委嘱状交付

委嘱期間は令和4年6月1日から令和6年5月31日まで（2年間）

4. 自己紹介

社会教育委員、教育長及び事務局について自己紹介をおこなった。

5. 議題

(1) 議長・副議長の選出について

正副議長の任期は2年。委員の中から議長・副議長について推薦や意見等がなかったため、事務局から「正副議長（案）」について提案がなされ、議長は野崎委員、副議長は常行委員に就任いただくことが承認された。

(2) 各協議会等役員の選出について

事務局より、各協議会等役員の選出について事務局案が提案された。人権教育協議会理事については金子委員、図書館協議会委員については上田委員と倉橋委員、阪神北地区社会教育委員協議会の理事に野崎議長と常行副議長、阪神北地区社会教育委員協議会の監事は倉橋委員で承認された。

(3) 社会教育委員に係る会議等の日程について

事務局より、令和4年度会議日程スケジュール（案）について、阪神北地区社会教育委員協議会、兵庫県社会教育委員協議会、近畿地区社会教育研究大会及び全国社会教育研究大会について、現時点で分かっている日程、会場及び内容について説明がなされた。また川西市社会教育委員の会日程について、今年度は本日の会議も含め、8月、11月、1月、2月の5回開催を予定しており、2回目の8月については「郷土館」の現地視察を予定している旨の説明がなされた。川西市社会教育委員の会日程については、事務局案が進めながら、会議の進捗などによって今後調整していくとい

うことで了承された。

(4) 今期の研究テーマについて

今期の研究テーマは「社会教育施設のあり方について ～郷土館の社会教育施設としての活用方法について～」。

事務局より「川西市郷土館」の概要についての説明がなされた。

①川西市郷土館の概要

・館の歴史、・所在地、・職員体制、・開館時間など、・入館料、・施設使用料、年間利用者数、施設概要

②川西市郷土館の活用の現状

・学校教育との連携、・地域住民との連携、

③川西市郷土館の今後の活用について

・方向性、・活用方法

事務局から概要説明がなされた後に、今期のテーマについてどのように研究を進めていくか、委員の方々から意見を求めたが、特に意見が無かった。事務局案として今年度は社会教育委員の会を5回開催予定であり、次回8月開催予定の第2回目に現地視察を行った後に研究を進めていく提案がなされ、これが承認された。

委員の方より、郷土館の概要等について以下のとおり質問や意見等をいただいた。

委員) 概要説明を聴くと、既に色々な行事をやっている感覚を受けるが、社会教育施設に特化して考えるということか。

事務局) これまで社会教育施設として郷土館を培ってきており、郷土館の館長も色々な事に取り組みを頑張っている。しかし、近隣小学校による郷土館利用も部分的な形になっている。もっと教育現場や教職員に川西市を知ってもらいきっかけになるような施設にできないかと考えている。教育現場等と改めてもっと繋がりを密にしていくために、郷土館を活用する方法について事例や知見、アイデア、ご意見などをいただければと思っている。

委員) 郷土館のランニングコスト、人件費や年間修繕費がいくらかなど、これまでの財政的な数字をいただきたい。資料の中で「東谷ズムの継承と発展」と書いてあるが、これは何のことか。

事務局) 東谷ズムとは市内の事業者やコミュニティの方々任意で実行委員会を立ち上げ、町おこしをするイベント活動で、大正ロマンの仮装をして郷土館エリアの散策や講談師による多田銀銅山や山下城についての説明会などを年1回開催していた。町おこしイベントの重要な催しの場の1つとして郷土館を利用していただいていた。非常に良い取組として継続して何年か実施していたが、実行委員会を構成していた事業者の方々から、ある程度の役割を果たしたとのことで、今現在は活動停止している。

委員) 地域づくりにおいて総合的な学習の中で、いかに町づくりを絡めて郷土館の活用を見いだすか、子どもが郷土館をいかにニーズのある場所としてとらえたうえで、郷土館の活性化を促すためにどうしたら良いかというように、学習の対象として扱うことも手段の1つと思う。保護者も興味を持つだろうから、子どものアイデアを取り入れたような展示やコーナーを設けると、まちづくりの拠点として良い活動になるのではないかと。

委員) 事務局の概要説明を聴いて、郷土館を収益施設として活性化させるのではなく、社会教育的な利用を活発化させたいということが主旨ということを理解した。そういう主旨からすると、今現在の教育面での利用がどのような現状かをもう少し数値的に示していただきたい。資料には郷土館の年間利用者数が出ている。しかし、収益施設として活性化させるのであれば、利用者数を更に増やすことが必要であるが、教育施設としてどうかという主旨であるので、学校が年間何校、子どもたちが何人利用しているのかというような情報をもう少しいただきたい。また、社会教育的な活性化をさせたいということであれば、今現在、この郷土館に関わっているボランティアの方々がどれくらいおられるのかが気になる。郷土館の職員の方々がイベントを主催するだけでなく、色々なボランティアの方や市民団体の方に入ってきて、その活動を活性化させることが必要になってくる気がする。場合によっては郷土館に関わる市民の方を育てていくような養成講座などが必要なかもしれない。

委員) 郷土館の最寄りの小学校区であるが、郷土館は近くには有るが、往復の時間や、そこでの滞在時間等々を考えると、なかなか児童を連れて行くという形にはなっていない。郷土館へ行くなら、もう少し遠方へ足を運んで、そこで何らかの体験学習をさせてもらおうかという形になる。郷土館は行きにくい、中途半端な印象がある。

委員) 郷土館については、学校教育の中で「わがまちふるさと」にある財産として子どもたちにどう活用させていくか、今後考えていかなければならないと思う。しかし、立地的な問題で郷土館へ行こうとすると、公共交通機関を利用すればある程度の距離が有るし、貸し切りバスで行くというのも難しい。郷土館をどういう場面で、どういう時間を利用して、どういう活用をしていくか、折り合いが付かないというのが正直なところである。今後、郷土館の色々な活用方法を考えていく中で、教育現場からもどのような教育活動と結び付けられるかといった視点、初任者だけでなく教職員に郷土館でこのような体験が出来るというような紹介の機会があれば、教職員の中からも色々な活用案が出てくるのではないかと思う。

委員) 資料を見ると、郷土館の今後の活用については①3つの価値(場所、建築物、歴史)を再認識する機会にする、②ふるさと意識を醸成する場にする、③憩いの場にする、となっている。社会教育施設として活用するなら、①と②は出来るとしても、③憩いの場にするというのは社会教育施設なのだろうかと思う。子どもたちは在学中に郷土館見学に行くが、家庭にはあまり郷土館のことに関して伝わらない。どこをターゲットにアピールし、人を集めて行くのだろうかと感じた。

委員) 次回は現地視察の機会を設けてもらえるようなので、社会教育施設として利活用促進、量と質の面を担保しながら川西の財産として持続可能な施設の存続を皆さんと知恵を絞りながら考えていけたらと思う。

委員) 郷土館がどのようなところか、能勢電鉄に乗って事前に訪問してみたが、公共施設で300円も入館料を取るのかと思った。しかし、訪問してみたらその入館料に見合った価値は十分にある。青木大乘や平通武男の画にしても。郷土館がどのような施設か、単に名称だけでは分からないので、もっと川西市にお住いの方に広報した方が良い。ただ、今の時代に即したバリアフリー化がなされていない。今の時代、施設をこれからもっと多くの方に利用してもらいたいのであれば、バリアフリー化は基本中の基本なので、まずはそれをやらないといけないだろう。利用者が来なかったとしても、市としての心構えとしてバリアフリー化には先に手を付けておかなければならないと感じた。

事務局) 次回は現地視察を検討している。現地を見ていただいたうえで、研究を進めていければと思っている。研究テーマについては、本年度と来年度の2年をかけて研究をお願いすることになるが、今年度は本日も含めて5回の開催を考えているので、よろしくをお願いしたい。

6. その他

事務局から、次回の川西市社会教育委員の会(第2回)は委員の方々と日程調整をしたうえで開催日を決定したい旨の説明があり、これが了承された。

7. 閉会